日本一のスラブで精神修行！？

宮崎 雌鉾岳　大長征ルート

小暮

日本離れした景観の中で、スラブをぐいぐい登る。そんなイメージの雌鉾岳。「めんぼこだけ」と読むとガイドブックには記載があるが、地元の方は「めんぽこ」と言っていた。ちょっとコミカルな感じもするが、なかなか素晴らしいルートであった。昨年の遠征では、台風による土砂崩れがあって登山口にすら辿り着けなかったが、今回は道路も復旧したようなので是非とも登りたいと思っていた。雌鉾岳には幾つかのルートが開かれているが、今回登った大長征ルートは、美しいトラバースルート下部と大滝左ルート上部を、中央バンドで繋ぐ合成ルートである。難易度は最も易しいながら、雌鉾岳では一番人気のルートである。

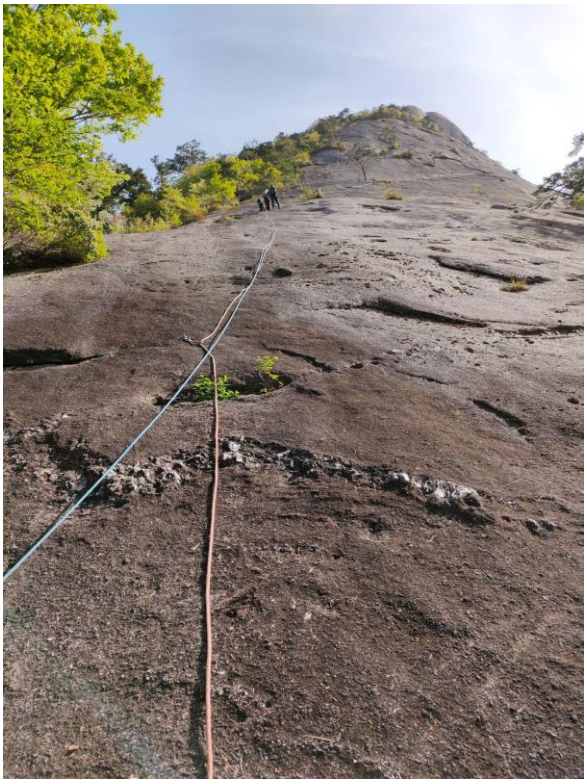
限界集落となる鹿川地区の最奥にある鹿川キャンプ場に車を停めて、鉾岳登山道からのアプローチとなる。しばらく林道を進み、樹林帯の中の登山道を登っていくと、日本最大級の一枚岩 鉾岳スラブと書かれた看板がある。登山道のすぐ脇に大迫力のスラブが広がっていて、ここが取り付きである。既に先行2パーティがあり、トップが1ピッチ目を登っているところであった。3番目となってしまったので、時間待ちをしつつ登っていくことになる。

1ピッチ目 45m Ⅳ- 小暮リード

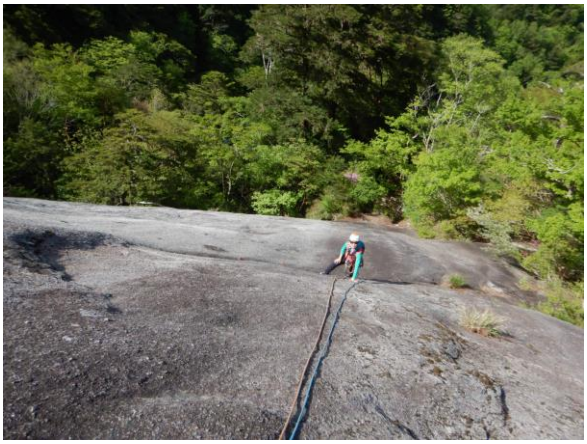
傾斜の緩いスラブだが、ピンがかなり高い位置にあり、全体でも3本しかない。ピンの前後にはやや難しいパートがあるので緊張する。ランナウトしているので、足を滑らせたらグランドフォールしてしまうだろう。トポでは5.2(Ⅳ-)とあるが、体感的には5.6か5.7くらいではないだろうか。

2ピッチ目 45m Ⅳ 小暮リード

先行パーティにすぐに追いついてしまうので、終了点で時間調整しながらの登りとなる。このピッチもピンが2本しかなく、易しいスラブではあるが気は抜けない。灌木の生えたテラスが終了点。



日本最大級の一枚岩



ピン少ない

3ピッチ目 35m Ⅳ 小暮リード

ここからは、やや右上するラインとなる。下からピンがよく見えないので先行パーティがいないと悩むかもしれない。35mで途中のピンは1本だけだった。

4ピッチ目 35m Ⅳ- 小暮リード

少し上にあがってからトラバースとなる。スラブが延々と続いているので、写真映えする。

とにかく眺めがいい

5ピッチ目 35m Ⅳ＋ 小暮リード

やや下がり気味にトラバースしていく。難しくはないが、トラバースなので落ちたらかなり振られるのでちょっと怖い。

絶景の中でクライミング

6ピッチ目 20m Ⅴ- 小暮リード

リッジの上に直上してから、トラバースとなる。ホールドは豊富なので直上パートは容易である。先行の学生パーティはこのラインではなく一段上のカメレオンルートをトラバースしていた。先行パーティが短くピッチをきってしまっているので、我々もそこでピッチを切らざるを得ない。ボルト1本とボロいRCCで終了点としてはイマイチだがやむを得ない。本来の終了点は更に10mほどトラバースした先にあった。

7ピッチ目 50m Ⅲ 笹川リード

中央バンドに沿って歩くような感じである。手前でピッチを切った関係で、終了点まで50mぎりぎりになってしまった。

中央バンドのトラバース

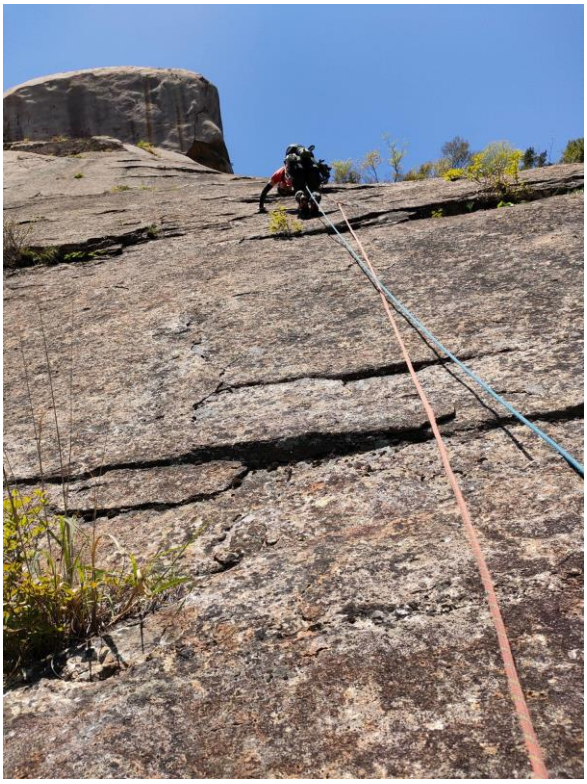
ここは日本か！？

8ピッチ目 30m V 小暮リード

広いテラスがスタート地点で、ここから大滝左ルート上部に入る。ここで学生パーティが先を譲ってくれたので助かった。フェースを直上するラインで、これまでのピッチよりもやや難しく、マルチピッチフリーというにふさわしい。

9ピッチ目 20m V+ 小暮リード

8ピッチ目同様にやや難しいフェースが続く。先行パーティは、すぐ真上で短くピッチを切っており、古いRCCボルト2本と細い灌木の3点から支点を構築している。トポではこのピッチは45mとなっているが、このまま突入するとロープが届かなくなる可能性があるらしい。このパーティは前日もお会いしており、前日は我々のすぐ後ろを登っていた。どうやら何度かこのルートも登ったことがあるようだった。



一の坊主を目掛けて登っていく

ちょっと細かいところもある

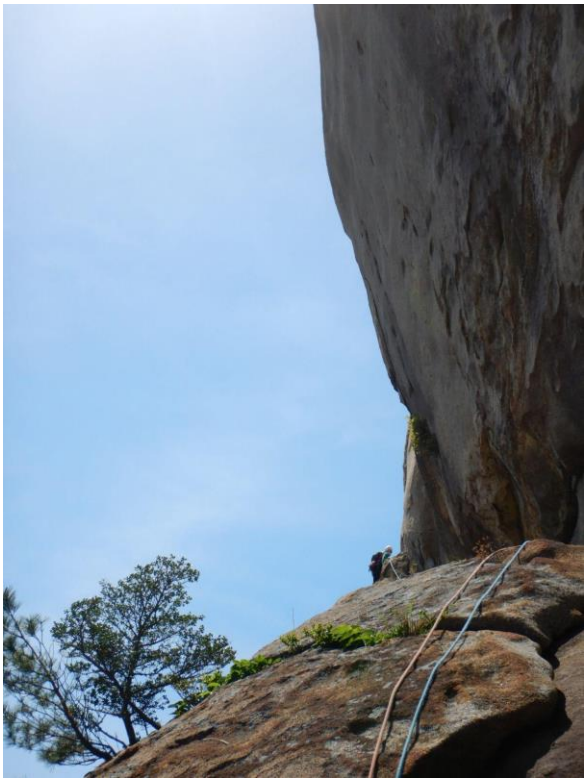
10ピッチ目 30m V+ 小暮リード

短い間隔でボルトがあるが、老朽化しており、墜落したら折れそうなのでとても怖い。傾斜の強いカンテ状のフレークをつかんでレイバック気味に登るのだが、明確なふっとホールドが無く難しい。5.10a位の難易度にも思えるが、ピンがぼろ過ぎて思い切って登れない。

10ピッチ目

11ピッチ目 ほぼ歩き　笹川リード

一の坊主下のテラスに沿って左へトラバースしていくが、飛び出した岩があってロープがスタックする。二の坊主に差しかかるところでいったんピッチを切る。



一の坊主の下をトラバースしていく

12ピッチ目 V 小暮リード

3mほど短くつないで、12ピッチ目のクラック下まで移動する。クラックは5mほどで、#2と#3のカムを1つずつ使う。上部は左へトラバースして、フレークを使ってワンポイント登ると、雌鉾岳山頂に飛び出した。

12ピッチ目のクラック

最後は山頂に飛び出す

最終ピッチの終了点が頂上というのが何とも言えず気持ち良い。周囲の展望も素晴らしかった。下降は、登山道が使えて、頂上直下は梯子を下って、雄鉾岳との間に流れる沢沿いに進む。穏やかなナメになっていて美しい。沢を渡ると、崩れた林道

をしばらく進み、再び登山道を下降する。樹林帯の中にところどころツツジが咲いていて綺麗だった。登山道の対岸には、先ほどまで登っていた鉾岳スラブの全貌を望むことが出来る。まだ学生パーティは、一の坊主の直下でロープを伸ばしているようだ。登ったラインがよく見えるので面白い。

下山路の途中のパックン岩は、パックマンの形に似た割れた岩で、観光スポットとして有名らしい。我々もいろいろなポーズで記念撮影をして楽しんだ。雌鉾岳は変化に富んでいてハイキングだけでも面白い。今回は、充実のマルチピッチと、見どころ満載の下山路など充実の一日となった。何度も登ってみたくなる楽しいルートだと思う。

DATA

山行日　2023年5月2日(火)

行程　5/2　鹿川キャンプ場(7:30)～取付(8:15/45)～

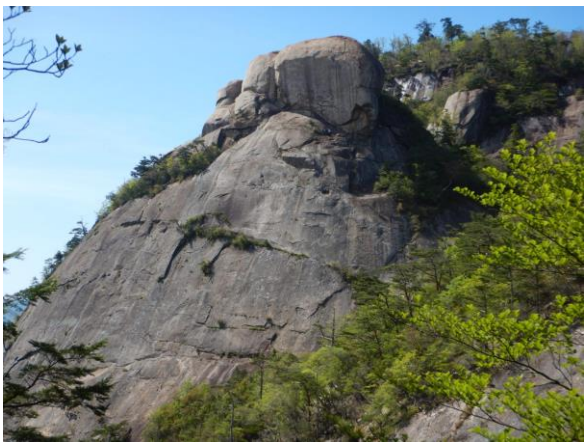
雌鉾岳頂上(14:35)～パックン岩(15:15/30)～

鹿川キャンプ場(16:25)

地形図　大菅、祝子川

メンバー　L小暮、笹川

パックン岩



雌鉾岳左エリア全景